

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！TEL
03-5950-1771

手道具・手刻みで挑戦するカレッジ名物授業



木組みの建築の基本を学ぶ「23期 実習棟」上棟しました！



小屋組み班と丸太班の皆さん（1月19日、江東実習場）

23期の実習棟実習、1月19日（日）無事、上棟することができました。いくつかのミスが組み上げの作業中に見つかりま

したが、指導員の先生方の的確な指示を受けつつ修正し、明るいうちに棟上げできました。

○ ○ ○ ○

伝統構法

（金具、筋交いを使わない日本古来の木組みだけにによる建築構法）も取り入れた木造軸組みの実習棟実習は全国的にも大変珍しい教育実践です。本校ではこれを手道具、手刻みにこだわって建ち上げます。二間×二間半の小さな実習棟ですが、

東京建築カレッジは、1月からの3ヶ月、1年間で最も忙しい日々に入ります。1年生は実習棟の上棟、その構造実験、屋根や内法（うちのり）の実習へ。2年生は東京都の担当官の立会いの下、「技能照査」の実技と学科の試験が行なわれます。こうした厳しい教育実践が研修生を確実に成長させていきます。

毎年営々と繰り返してきた教育には大きな値打ちがあると自負しています。

○ ○ ○ ○

大変珍しい教育実践のため、海外の建築系学生が見学に訪れたこともありました。伝統構法は、環境意識の高まり、自然志向のライフスタイルの広がりを背景に、その現代的発展が期待されています。伝統の継承にとどまらず、これを生かした住宅建築の新たな地平の創造が、担い手の育成を中心に、今後の本校には求められています。

実習棟で「構造実験」も



授業で建ち上げた実習棟を使って「構造実験」も行ないます。構造設計の実務に精通した講師が

●右写真 1月26日

応募締切2/21木、試験2/27水

◎学校説明会 2月12日（火曜）

昼の部：午後2時～、夜の部：午後7時～
池袋校舎

学校説明会の開催日に授業はありません。
授業（金曜・土曜）見学をお勧めします。
ご希望の日にちをお知らせください。

◎応募締切 2月21日（木曜）

「入学願書」等一式の送付締切

◎入学選考 2月27日（水曜）

午前9時30分開始。午後4時頃まで
池袋校舎
受付：午前9時15分まで

◎合格発表 2月29日（金曜）

ご注意：

「人材開発支援助成金」の実施訓練計画届の提出は「新たに雇い入れた被保険者のみを対象とした訓練」以外は「訓練開始日から起算して1か月前まで」となります。3月1日が申請期限です（3月2日・3日は土日のため）。利用検討の事業主は急ぎご相談下さい。

24期生募集（4月入学）最終締め切り迫る

家族の暮らし方を考える住宅設計

- ① 住み手(家族)と住まいの関係をつかむ。
- ② 専門家(設計者・施工者)の任務の自覚
- ③ 住み手(家族)を自由に想定する。
- ④ 与えられた敷地条件で間取りプランをつくる。

1年生の授業から

東京建築カレッジの授業は実技実習ばかりが目立ちますが、その他の科目も充実しています。その一つが住宅設計を学ぶ「住宅計画演習A・B」です(構成は上の表)。1年次の秋にスタートします。人にとって建築とは何か? 家族にとって住まい(住宅)とは何か? という問いかけから始め、建築の専門家の任務を



プランの作成を通して考えさせます。指導するのは、第一線で活躍中の建築士です。

この授業は、大工など施工分野の職種(研修生)にとっても重要な意味を持ちます。ただ指示された作業をこなすのではなく、お客様(お施主様)の要望を直接聞き、実現するための具休策を分かりやすく提示する能力が、工務店・大工の自立には不可欠だからです。それができない工務店・大工は、技術・技能がどんなに優れていても、一生請負(下請け)の地位に甘んじることになります。

1月25日(金)は、「住宅計画演習B」の最終回。各自が想定した家族構成と一人ひとりのライフスタイルを発表し、この家族のために自分が創造した間取り、

平面図を発表しました(写真)。

この授業は複数の科目のレビュー方式で展開していきます。今後、構造や法規制の検討、確認申請クリアなどを実践的に学びながら、設計図書を描いていく授業が始まります。CAD(コンピュータ支援設計)教育とも連結していきます。そして、夏から秋にかけて、100分の1サイズ、50分の1サイズ、50分の1サイズまでの意匠模型づくりまで、この授業は続いていきます。

技能照査(実技試験)「化粧棒隅木」



- ① 2年次後期の実技実習は「規矩(きく)術演習」
規矩術とは、数学(幾何)を建築施工に落とし込んだ理論。指矩(さしがね)使いが中心
- ② 盛夏以降、「朝顔箱」「風呂イス」「四方転び踏み台」「棒隅木」の順番で課題を学んでいく。江戸時代から続く大工育成の教程。
- ③ 技能照査(実技)試験の課題は「化粧棒隅木」。学科試験も併せて合格すれば「建築大工 技能士補」の称号が与えられる。

2年生の授業から

1月12日(土)、13日(日)の2日間、第22期生(2年生)の「技能照査実技試験」が池袋校舎で行なわれました。課題は「化粧棒隅木」。これをクリアして、学科試験もパスすれば、「(建築大工)技能士補」の称号が与えられ、二級建築大工技能検定の学科試験が免除となります。国の技能検定制度に基いて行なわれる試験です。

「棒隅木(ぼうすみき)」が完全にできれば家一軒建てられる」と言われる大工技術教育の定番の課題で、サシガネを使いこなす規矩(きく)術の理解と、製図・墨付け・刻みなどの技量が問われます。

1月27日(日)には実技試験講評が行なわれました。研修生の作品は2月以降しばらくの間、池袋校舎内に展示します。

他産業との人材獲得競争に打ち勝つため、2020年春採用の活動を今から始めましょう！

東京建築カレッジを新人の採用&教育に位置づけ、活用しましょう！

誰もが安心して希望の持って働き続けられる職場づくりを進めましょう。中小企業でもやる気があれば可能です。新人の採用後すぐの研修に東京建築カレッジを位置づけ、早期離職防止と基本の知識と技の習得に生かしましょう。詳しくはお問い合わせください。「東京建築カレッジ無料職業紹介所」のご紹介と導入プランをアドバイスさせていただきます。